新潟市教育相談センターだより

もえぎ

第 109 号
令和２年７月８日
新潟市教育相談センター
新潟市中央区西大畑町458番地1
TEL（025）222－8600（代表）
FAX（025）222－8303
E-mail:sodan.ed@city.niigata.lg.jp

相手の気持ちを考える

適応指導部　**松島 慎一郎**

昨年度末に，新型コロナウイルス感染防止にかかわり，全国の小・中学校が休校になりました。その後も，再度の休校や休校の延長等もあり，当センターの適応指導教室も，それにともない閉室になりました。４月８日に新年度をスタートさせることができましたが，すぐに再度の閉室になった時に，ある通室生が，「また休みかぁ・・・」とつぶやきました。適応指導教室が，その子にとって大切な居場所となり，人とのコミュニケーションを通して，心のエネルギーをためているのだなと改めて実感した瞬間でした。

さて，小学校の国語の教科書に出てくる『お手紙』という物語をご存じでしょうか。「がまくんとかえるくんのお話」と言うと，知っている人も多いかもしれません。簡単にストーリーを説明します。

> 悲しそうな様子で玄関の前に座っているがまくん。それを見て，かえるくんは話を聞きます。がまくんは，手紙を一度ももらったことがなく，お手紙を待つ時間が一番不幸せになるとのこと。その話を聞いたかえるくんは，あることを思いつき，帰宅します。かえるくんは，「がまがえるくんへ」と手紙を書き，かたつむりくんに手紙を渡し，がまくんの家へもどります。そうして，二人で一緒に手紙が届くまでの幸せな時間を過ごします。

子どもたちも大好きな物語です。何回読んでも，読んだ後は，なんだかほっこりとした気持ちになります。

私自身，当センターに赴任して２年目となりましたが，昨年度１年間だけでも本当に様々な子どもたちに出会いました。どの子も個性が光るすばらしい子どもたちばかりでした。しかし，多かれ少なかれ何かしらの悩みや迷いを抱えていました。センターの職員として，どのような対応・支援が適切なのか自分自身も迷いの連続でした。そのような時に，不意に頭に浮かんだのが，『お手紙』だったのです。当然，がまくんとかえるくんのように「親友」という立場ではありませんが，私自身に大切なことを教えてくれているような気がしました。それは，「相手の気持ちを理解し，話をよく聞くこと」。一般的には，「傾聴・受容・共感」などと言われ，学級経営における支持的風土としても大切にされていることです。かえるくんが，がまくんの話を聞いている姿に，そして，幸せそうに一緒にお手紙を待っている姿に，改めて相手に対する思いやりの気持ちの大切さを想起させてくれます。

適応指導教室には，何らかの理由で不登校，不登校傾向にある子どもたちが通室してきます。本人の思いに丁寧に耳を傾け，よりよい関係を築き，支援を続けていくことで，前に踏み出す心のエネルギーが貯まり，子ども自身の力を高めることができます。子どもたちの学校復帰や社会的な自立に向け，今後も計画的・組織的に取組を進めていきたいと考えています。

令和２年度「教育相談研究会」のお知らせ

例年，教育相談センターや各区教育相談室の相談主訴の８割を超えているのが不登校です。これまで当センターでは，文部科学省や新潟市教育委員会より通知され，各学校でも取り組まれています「児童生徒理解・教育支援シート」の活用をテーマとして３年間研究を進めてまいりました。

３年目となる昨年度は，「『児童生徒理解・教育支援シート』でつなぐ連携のあり方」を副題とし，センター内はもちろん，学校や他機関とどのようにつながり，連携していくとよいかについて具体的な事例を挙げながら提案させていただきました。

昨年10月に出された文科省新通知を受け，今年度は，これまでの研究を踏まえながら，教育相談部・適応指導部の他に，特別支援教育サポートセンターの分科会も加え，よりよい連携の方策について提案させていただきたいと考えています。右記のように開催する予定ですので，ぜひ参加していただき，忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

＜開催日時＞　令和２年11月25日（水）
15時00分～16時30分

＜会　　場＞　新潟市教育相談センター

＜各分科会アドバイザー＞

新潟大学
准教授
田中 恒彦 様

新潟青陵大学大学院
教 授
佐藤　亨 様

新潟市教育委員会 学校支援課
総括指導主事
関原 一成 様

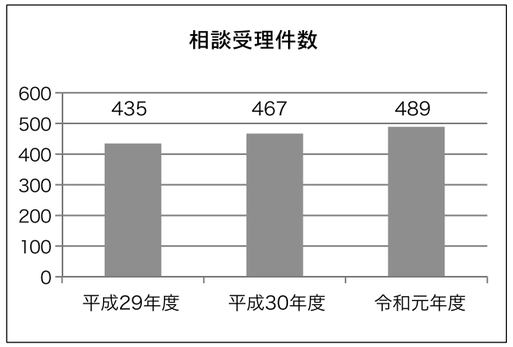
詳細につきましては，９月上旬にメール配信をいたします。添付されています申込書に記入され，お申し込みください。なお，新型コロナウイルス感染症にかかわり，直前の中止等変更があり得ることをご承知おきください。

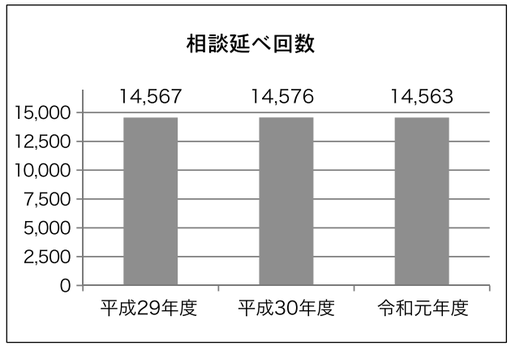
令和元年度 相談集計特集

教育相談センターと各区（北，江南，秋葉，南，西蒲）教育相談室では，児童生徒及び保護者への相談支援として「来所相談」，「適応指導教室」，「訪問教育相談」，「夜間『学習・進路相談室』」「いじめSOS電話相談」（夜間といじめSOS電話は教育相談センターのみ）を行っています。

この度，令和元年度の相談状況がまとまりましたのでお伝えします。

1 相談受理件数は微増，延べ回数は横ばい傾向

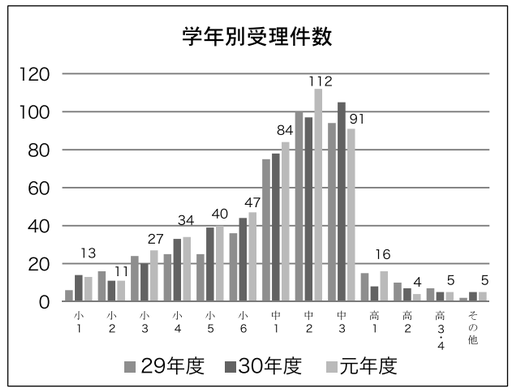




相談受理件数とは，「来所相談」と「訪問教育相談」の受け付け件数です。年間で何回相談しても1人の相談者は1件として集計しています。逆に，相談延べ回数は，実際に相談した回数の総計です。

年間の「相談受理件数」は微増となっており「延べ回数」は，横ばいの状態となっています。

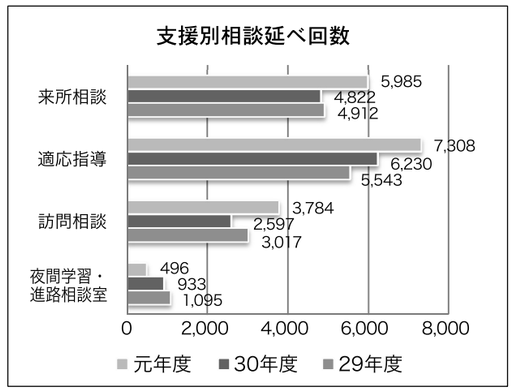
2 中2，中3の件数が特に多く，中学生が57.6%



相談受理件数を学年別で見ると，小学校高学年から徐々に増加し始め，中学校で一気に増加し，高校生になると急激に減少するのがここ数年の全国的な傾向です。

令和元年度の値を前年比で見てみると，小3がやや増加したものの学年別の相談受理件数は，ほぼ前年並みでした。中学生の全体に占める割合は57.6%で，特に昨年度は中2の相談受理件数が100件を超えており依然高い数値となっています。中学生を取り巻く環境が，さらに，複雑かつ多様化していることが懸念されます。

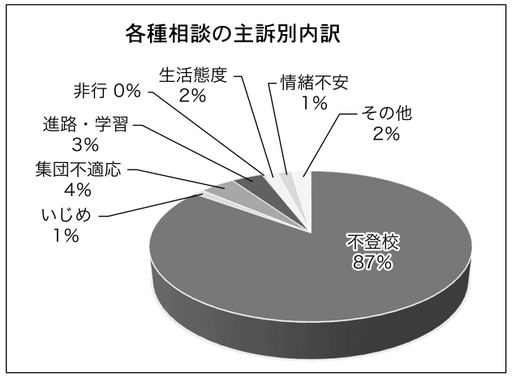
3 「夜間『学習・進路相談室』」以外の支援形態が増加



支援形態別で見ると，「適応指導教室」「来所相談」「訪問相談」が前年比で1000回程増加しています。

いずれの支援形態もセンター及び各区教育相談室と市内の6室で，増える傾向にありました。令和元年度は1月末から新型コロナウイルスの不安が広がりました。3月には市内の学校に合わせ，適応指導教室，夜間学習・進路相談室をお休みとしましたが，それでも相談件数が昨年に比べて大きく増えたのは社会に広がる不安の表れなのかもしれません。そのためにもよりきめ細かく適切な相談が求められているのだと思います。

4 相談主訴の約87%が「不登校」



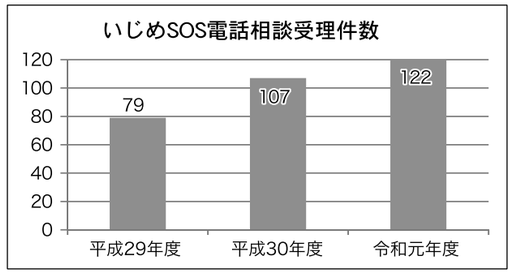
「主訴」とは，相談者の抱える複数の訴えの中で，最も中心的な訴えのことです。

そして，その主訴の中で「不登校」の割合が，H27年度は73%，H28年度は82%と次第に大きくなり，平成29年度は85%，さらに平成30年度は87%と増え，過去最高となりました。令和元年度も87%と同等の高い割合になっています。全国的にも，小・中学校の不登校児童生徒数が平成25年度から増加に転じ，その後高水準で推移するなど憂慮すべき状況であります。

主訴は不登校といっても要因は，友人関係，集団不適応，進路・学業，家庭環境・親子関係，学校不信など様々です。継続した相談を重ねながら，相談者の思いを丁寧に聴き取るなど，個々に寄り添った相談・支援が一層求められています。

5 いじめSOS電話相談件数は増加傾向

センターや各相談室では，原則として，一般電話相談は行っていません。相談は来所相談が原則です。しかし，来所相談を受け付けるにあたり，ファースト・コンタクトの電話でも深刻な相談内容の場合も多くあります。その様な場合には，電話による相談に誠実に対応させていただいております。



全国的に実施されている「いじめSOS電話相談」の当センターでの受理件数は，昨年度年間100件を超え，今年度さらに増加しました。

また，近年，悩みや困りごとを抱える若年層世代が，より気軽に相談できるように，SNS（LINEなどのソーシャルネットワークシステム）を使った「いじめ相談」が全国的に試行されています。本県でも，LINEを使った「いじめ相談」が昨年度より実施されています（相談対応は当センターではありません）。

最後に

「相談集計」の考察は非常に難しいものです。例えば「相談件数が減った」と言っても，それは「相談者の信頼や認知度が下がった」と危機的に捉えるべきなのか，「悩みや困りごとを抱える相談者が減った」と職責遂行のモチベーションにしてよいのか，数値だけでは見取れません。

私どもは「相談集計」に基づいた経年変化や傾向を把握するとともに，日々の教育相談を通した「見立て」と照らし合わせながら，相談状況を考察し，当センターが教育のセーフティーネット機関として，皆様から一層信頼され安心して利用されるよう，業務評価や業務改善を進めていきたいと考えています。

大学・市教委連携教育相談事業

担当　適応指導部主任　**松島 慎一郎**

当センター・各区教育相談室来所者の方々や職員のために，新潟大学と新潟青陵大学の先生方からご協力をいただいています「大学・市教委連携教育相談事業」は，37年目を迎えました。

今年度も，相談指導，教育相談，事例研究会，講義などで，臨床，医療，特別支援教育と，それぞれ専門的なお立場からのご指導やご助言をいただき，来所者の方々への支援に活かしていくように，私たち職員一同，努めてまいります。

～ご協力いただいている大学の先生方～

＜新潟大学＞
- 教　授　横山　知行先生
- 教　授　長澤　正樹先生
- 教　授　神村　栄一先生
- 教　授　有川　宏幸先生
- 准教授　田中　恒彦先生
- 准教授　入山満恵子先生

＜新潟青陵大学大学院＞
- 教　授　伊藤真理子先生
- 教　授　佐藤　亨先生
- 准教授　浅田　剛正先生
- 助　教　小林　智先生

訪問教育相談の支援

訪問教育相談部主任　**齊川　豊**

先日，「訪問教育相談は，子どもの家に入り込んで無理に心を開かせようとしたり，学校に行かせようとしたりするのでしょう？」と質問を受けました。

私は次のように答えました。「そうではありません。私たち訪問相談員は，保護者や学校と連携を取り，子どもの気持ちを大切にしながら取り組んでいます。しかし，保護者の了解のもと家庭訪問したとしても不登校あるいは引きこもりがちな子どもとは，いつでも本人と会えるというわけではありませんし，会えたとしても会話が続かないこともよくあります。誰だって初めて会う人にすぐに心を開くなどありません。訪問相談員はそのことを十分承知していますから，『少しずつ，少しずつ』を基本にしながら心の交流を図れるよう心掛けているのです。また，訪問相談は『学校に登校する』という結果のみを目標にしているわけではありません。相談を通しながら，子どもが自らの進路を主体的に捉えるとともに社会的自立ができるよう支援しています。」と答えました。

すると，「どうしたら訪問教育相談を受けることができるのでしょうか？」と再度，質問されました。

「それについては，学校からの提出書類が必要となりますので，まず本人の気持ちを確かめるとともに担任の先生ともよく相談をしてみてください。もし訪問教育相談を希望されるようでしたら，私たちは全力を尽くして支援します。」と答えました。

もえぎギャラリー

～教育相談センターを利用する子どもたちは いろいろな活動に取り組み，思い思いに過ごします～

ぐみの木教室　１年間の歩み

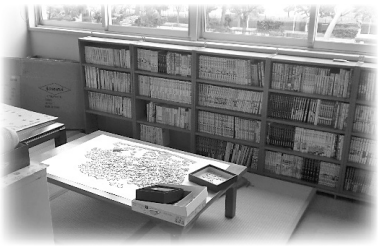
今年度は子どもたちの活動の様子を入口からまっすぐ進んだ新館１階廊下の壁面等で紹介しています。

ぐみの木教室１年間の活動写真，モザイクアートの共同作品，また絵を描く部屋，イラストルームで創作した作品等展示しています。

お越しになられた際には，ぜひご覧ください。

野菜栽培活動（ぐみ's 畑）

絵を描く部屋の作品の展示コーナー



ぐみの木教室　畳スペース
～ 読書，パズル，将棋 etc ～